

長野高専環境都市工学科による 円筒分水工の測量・調査

国立長野高専環境都市工学科の学生たちが、測量や調査などの専門技術を学び、将来の職業を考える機会として、平成28年11月10日 箕輪町の西天竜幹線水路 円筒分水工を測量、調査しました。この取り組みは、長野高専、一般社団法人 長野県測量設計業協会、土木・環境しなの技術支援センターの共同で行う授業で、今年で4回目の取り組みで、南信地域では初めての実施となりました。

学校からバスで箕輪町文化センターへ到着した後、10時過ぎから開校式では、箕輪町郷土博物館の柴さに用水が出来た歴史、上伊那地方事務所農地整備課から、円筒分水の説明をして頂きました。そのあと、6班にわかれた学生43名は、

測量協会の指導者と共に現地へいき、6箇所の円筒分水の調査や測量に取り組みました。円筒分水は、現在農業利用がないため、通水していませんが、土地改良区のご理解があり、作業がほぼ済んだ2時半頃から木下17号分水で、「通水」を行いました。学生たちからは、通水された円筒分水の変化に驚きと感動の声が出されました。午後3時からの成果発表では、学生たちから、今日の作業成果の発表があり、実際の構造物を測量できた喜びなどの感想がありました。

指導した測量設計業協会の技術者の皆さんからも、一緒に測量ができて、改めて技術の面白さを感じたとの



木下17号の通水 で流量測定

声がありました。当日は 箕輪町建設課、教育委員会から多大なご協力を頂き、また地元の県機関などの皆様にもご支援頂きました。今後、学校には今回の成果を調査報告書にとりまとめる作業をお願いし



各班から測量調査成果の発表

ましたので、その成果が町や関係者などへ届けられるよう、取り組みを学校とともに進めてきます。

関係の皆様のご支援、ご協力をありがとうございました。

